

米がブラジル選挙に干渉、軍事介入の準備も

By ALAN MACLEOD

テレスル 2026 年 09 月 04 日

[U.S. Meddling In Brazilian Elections, Preparing For Possible Military Intervention - teleSUR English](#)



本文

米国はブラジル大統領選挙に干渉し、失脚したジャイル・ボルソナロ前大統領の息子である右派候補フラビオ・ボルソナロへの投票をブラジル国民に迫っている。もしこれが功を奏さず、ルラ・ダ・シルバ大統領が 4 期目の当選を果たした場合、軍事介入に向けた準備が既に進められている。制裁や経済戦争から、インフルエンサーやジャーナリストに左派政権を攻撃する最適な方法を指導することまで、トランプ政権はルラ政権打倒のためにあらゆる手段を講じている。

一方、米 국무省が最近、ベネズエラの（犯罪組織）「アラグア鉄道」と同様にブラジルのギャングを「外国テロ組織」に指定したことは、軍事介入の意思を示している。

ブラジルはトランプ氏の次の標的であり、これは5月のコロンビア大統領選挙で行われた米国とイスラエルによる干渉に続くものだ。コロンビア大統領選挙では、トランプ支持派のアベラルド・デ・ラ・エスプリエラ氏が僅差で勝利した。

ここでは、ブラジルの民主主義を弱体化させ、ボルソナロを再び権力の座に就かせようとするトランプ政権の企てを検証する。

天秤に親指を乗せる

目前に迫った10月のブラジル大統領選挙には13人が立候補している。そのなかからすでに2人の有力候補が浮上している。現職の中道左派ルラ・ダ・シルバ氏と、極右の挑戦者ブラビオ・ボルソナロ氏だ。

ブラビオ氏の父のジャイル・ボルソナロ前大統領は、1月6日のクーデター未遂事件を主導したとして懲役27年の判決を受けている。また兄のエドゥアルド氏は、父親の裁判に米国が介入するよう働きかけたとして欠席裁判で有罪判決を受けた。

ワシントンがどちらの候補者を好むかは明らかだ。ボルソナロー家は政治的にも、思想的にも、そして個人的にもMAGA運動と非常に近い関係にあり、ブラビオ氏は「当選すればブラジルを米国の最も緊密な同盟国の一つにする」と既に約束している。

ルラ氏は現在、ボルソナロ氏に対し（支持率調査で）2桁のリードを保っている（40%対28%、他の候補者はいずれも国民の10%以上の支持を得ていない）。しかし、ブラジルの政治情勢は非常に速く変化する可能性がある。

2018 年には、ルラ氏はジャイル・ボルソナロ氏に 20 ポイントのリードを保っていたが、ブラジル最高裁判所が彼の出馬を阻止した。彼は米国政府が仕組んだでっち上げの容疑で投獄され、ボルソナロ氏の勝利への道が開かれた。

ルラ氏は、ブラジルの民主主義が再びワシントンから脅威にさらされていると警鐘を鳴らし、こう言っている。

「私としては、トランプ氏がボルソナロ氏を好きであろうとどうでもよいことだ。父も息子も孫も好きでいればいい。何の問題もない。それは彼の問題です。人の好みはそれぞれだ。だがブラジルの選挙に干渉しないでほしい。ブラジルの選挙はブラジルの問題です。アメリカの選挙がアメリカの問題であって私の問題ではないのと同じです。私が望むのは、アメリカに対するのと同じ敬意をブラジルにも払ってもらうことです。それだけです」

しかし、ワシントンは別の考えを持っていた。5 月 26 日、フラビオ・ボルソナロ大統領はワシントンを訪れ、トランプ大統領、JD・バンス副大統領、マルコ・ルビオ国務長官と会談した、彼は一所懸命、ブラジルへの軍事介入構想を売り込んだ。その 2 日後、米国務省はブラジルのギャング組織「コマンド・ヴェルメーリョ」と「プリメイロ・コマンド・ダ・キャピタル」を「特別指定国際テロ組織」および「外国テロ組織」に指定した。

アメリカ人ジャーナリスト、ブライアン・マイア氏は、1991 年にブラジルに移住し、現在はテレスール・イングリッシュのブラジル特派員を務めている。彼はこの決定を「ルラ大統領が再選された場合に侵攻するための先制措置」と評した。

2025 年、米国務省はベネズエラのギャング組織「トレン・デ・アラグア」に対しても同様の措置を取った。そのわずか数か月後、米国はニコラス・マドゥロ大統領を誘拐する作戦を実行し、ベネズエラ政府の首脳部を一掃した。

訳注：Tren de Aragua（アラグアの列車）は、ベネズエラ発祥のギャング組

織である。ベネズエラ政府は軍と警察を動員して拠点を制圧したが、幹部は国外に逃れ組織を再建した。トランプ政権はこれを操縦するベネズエラ政府はテロリスト政権だとし、政府転覆の口実にした。

言論の自由か、それともヘイトスピーチか？

マイア氏は、米国政府がブラジルのインフルエンサーたちに、ルラ氏と政府を攻撃する効果的な方法やテクニックを積極的に指導していると指摘した。今年初めには、サンパウロの米国領事館が選りすぐりの著名な右派人物を集めて一連のワークショップを開催していたことが明らかになった。

その一人であるインフルエンサーのマリア・フェルナンダ・シュミットは、イベントの写真を自身のインスタグラムに投稿することで、報道の信憑性を確認した。「これは、外交官たちと、デジタル環境におけるインフルエンサー、ジャーナリスト、コンテンツ制作者が直面する課題を共有する絶好の機会であり、ブラジルにおける表現の自由の方向性について有意義な対話ができた」と彼女は書いている。

米国領事館はまた、地元のジャーナリストにビザ米国訪問の手配も行っていた。目的は、彼らを「ルラ批判」や「ボルソナロ支持」に誘導することだ。具体的には「ルラ政権のせいでブラジルでは言論の自由が脅かされている」という「アメリカが後押しする主張」を広めさせるためである。

イーロン・マスクの介入

“言論の自由が脅かされている”というこの主張は、主に 2024 年に起きたブラジル当局と米国の大富豪イーロン・マスクとの対立が土台になっている。ブラジルの裁判所は、ヘイトスピーチや偽情報の法律に違反した極右アカウントを削除するよう X（旧 Twitter）に命じた。しかし、（X を運営する）マスクはこれを拒否した。マスク自身が世界各地で政権転覆をあおるような発信をしてきた人物でもあり、その時も命令に従わなかったため、ブラジル国内では一時的に X が停止される事態となった。

イーロン・マスクとボルソナロの浅からぬ因縁

「トランプ政権や共和党の有力者、そしてシリコンバレーのテクノロジー業界の盟友や評論家など、米国の中核を成す人々（スティーブ・バノン、イーロン・マスク、ピーター・ティール、マイケル・シェレンバーガーなど）は、ジャイル・ボルソナロが2018年に初めて大統領選に出馬して以来、ボルソナロ一家と緊密に協力してきた」とマイア氏は（ネットメディアの）ミントプレスに語った。

ブラジルの右派がMAGA運動から大きな影響を受けていることは周知の事実だ。実際、ブラジルでも2023年1月8日に、まさに1月6日のような出来事があった。2022年の大統領選挙で敗れたフラビオの父、ジャイル・ボルソナロは、テレビに出演して選挙結果を非難し、不正があったと主張し、反乱を呼びかけた。ブラジルでは数千人が街頭デモを行い、暴動を起こし、軍の介入を求めた。

アメリカの1月6日の「クーデター」（連邦議会襲撃）と同様、暴徒たちは目的を達成できなかった。しかし、アメリカとは異なり、ボルソナロはクーデター未遂の責任を問われ、2025年に懲役27年の判決を受けた。

彼の有罪に疑いの余地はほとんどない。ボルソナロは裁判中、選挙で敗北した後も権力を維持する方法について話し合うため、ブラジルの最高司令官たちと会談したことを認めた。しかし、トランプはこの決定に激怒した。

「ブラジルが、在任中、米国を含む世界中で高く評価されていたボルソナロ前大統領を扱ったやり方は、国際的な恥辱だ」とトランプ氏は述べ、裁判の即時終了を要求した。トランプ氏はブラジルと、同国最高裁判事のアレクサンドル・デ・モラエス氏に対し、厳しい経済制裁を科した。

この決定は、ジャイルの息子でフラビオの弟であるエドゥアルドの影響を受けた可能性が高い。エドゥアルドは父親のためにトランプ政権に強く働きかけ、

ブラジルへの制裁を要求した。ブラジル政府はこれを司法妨害とみなし、エドゥアルドに欠席裁判で懲役 4 年の判決を下した。彼は現在米テキサス州の豪邸に住んでおり、祖国に戻ることはできない。

そこで彼は、ベネズエラのマリア・コリーナ・マチャドが果たしたのと同様の役割を果たし、自らの家族を再び権力の座に就かせるために、米国に軍事介入を働きかけている。10 月には、麻薬密売対策を口実に、米軍によるリオデジャネイロ爆撃を公然と呼びかけた。

トランプ氏はエドゥアルド氏の裁判についてもコメントしたが、エドゥアルド氏を兄弟のフラビオ氏だと考えているようだった。「今日、選挙に出馬している人物が逮捕されたと聞いた」とトランプ氏は 6 月に語った。「世論調査で好調だったボルソナロ・ジュニアが逮捕されたと聞いた」。実際には、大統領選に出馬しているのはフラビオ・ボルソナロ氏である。

経済戦争と外交戦争

フラビオ氏は当選した場合、米国がブラジル国内で相当な影響力を行使することを約束、トランプ政権に自身の政権移行チームの指揮権を与える意向を示している。一部の人々によれば、これは米国当局がイラクを支配したのと似たような形で、ブラジルの経済と社会を相当程度支配することを意味するという。

ルラ氏とフラビオ・ボルソナロ氏の間で行われる次期大統領選挙は、米国がルラ氏の当選の可能性を潰すために、ブラジル経済を積極的に崩壊させようとしている状況下で行われる。

米国はブラジル製品に対し 40～50% という包括的な関税を課しており、さらに追加措置も検討中である。これらの措置は、昨年世界の多くの国に課された包括的な関税とは性質が異なっている。というのも米国は他国の場合とは異なり、ブラジルとの貿易では健全な黒字を維持しているからだ。

次に、トランプ大統領は大統領令の中で、「ブラジル政府が本命令で宣言された国家非常事態に対処するために重要な措置を講じ、本命令に記載されている国家安全保障、経済、外交政策の問題に関して米国と十分に連携するならば、私はこの命令をさらに修正する可能性がある」と明言した。

この声明の明白な意味合いは、ブラジルがワシントンへの忠誠心が不十分であるとして罰せられているということだ。外交関係は今月初め、米国がブラジルのマリア・レイザ・リベイロ・ヴィオッティ大使のビザを取り消し、帰国を余儀なくさせたことで悪化した。同日、ブラジルはアルゼンチン大使に国外退去を命じた。

マイア氏によれば、「トランプ政権は、ラテンアメリカ全域の左派政党、指導者、政権の正当性を失わせるために、（アルゼンチンの）ハビエル・ミレイ大統領と緊密に連携している」。ミレイ大統領は7月にサンパウロを訪れ、極右自由党の全国大会に出席し、そこでフラビオ・ボルソナロ氏が正式に大統領候補に選出された。ミレイ大統領は、ルラ氏の失脚を強く望んでおり、ボルソナロ氏の集会に出席し、ルラ氏を「腐敗した」「泥棒」「受刑者」と呼んでいる。

「CIA からの贈り物」

ミレイ大統領が「受刑者」という言葉を使ったのは、米国が支援した「オペレーション・カーウォッシュ」と呼ばれた（汚職摘発）作戦を指している。この作戦により、ルラ氏は汚職容疑で投獄された。彼は2018年の総選挙に向けた世論調査でジャイル・ボルソナロ氏に20ポイント以上の差をつけてリードしていたのに、投獄され、独房からの立候補を禁じられた。

「作戦」を実行した検察はワシントンと緊密に連携し、ルラ氏が刑務所に収監されたまま選挙に出馬できないようにすることで、ボルソナロ氏政権への道を開いた。ボルソナロ氏は後に、ルラ氏を投獄したセルジオ・モロ判事を法務大臣に任命した。

しかしその後、モロ判事はずっと検察側と連携していたことが明らかになった。主任検察官のデルタン・ダラニョルもその一人で、ルラの逮捕は「CIA からの贈り物」だと述べている。ボルソナロとモロは当選後まもなく、バージニア州ラングレーにある CIA 本部に飛び、会談した。

ワシントンの目には、この事件は大成功だった。当時 FBI 連絡官で、後に FBI の国際汚職対策部門の責任者となったレスリー・バックシーズは、自身の組織が「ブラジルの大統領を失脚させた」と豪語した。

したがって、ブラジル国民に「反汚職キャンペーン」として売り込まれていたものは、実際には現代的な **ローウフェア（法律を武器として政治的に攻撃する手法）** の典型例だった。ルラはこれについて、「**アメリカの手が加わっている**」と表現している。

この事件における露骨な汚職は、国内外で大きな怒りを呼び起こし、ルラは世界で最も有名な政治犯となった。世論の強い圧力により、彼は釈放され、有罪判決は取り消された。2022 年、彼はボルソナロ一族が打倒しようと躍起になっていた選挙で圧勝し、政権を握った。

アメリカの裏庭で生きるということ

ルラ氏は現在、前例のない 4 期目の大統領就任を目指している。1980 年代から主要な政治家として活躍してきたにもかかわらず、彼は依然として高い国民的支持を維持している。

労働者階級家庭に生まれた彼は、靴磨きや金属加工の仕事に従事し、10 代の頃に産業事故で左手の一部を失った。1969 年、抑圧的なアメリカの支援を受けたファシスト軍事独裁政権下で、金属加工労働組合のリーダーとして政界入りを果たした。政権を握ると、彼の党が実施した革新的な社会政策によって数千万人が貧困から脱却し、ブラジルの労働者階級における支持基盤を強化した。

しかし、ワシントンでこれほど大きな怒りを招いたのは、彼の国際的な動きである。ルラはこれまで、この地域におけるアメリカの帝国主義的な野望を阻止しようと試みたり、少なくとも全面的に支持することを拒否したりしてきた。しかし、トランプ大統領がルラを排除したいと考える主な理由は、ブラジルが BRICS 経済圏のリーダーであり、ロシアと中国（BRICS の頭文字の「R」と「C」）との協力関係を強化していることにあるのかもしれない。

近年、BRICS は、かつては目立たない経済同盟だったのが、今や世界中でアメリカの覇権を脅かす存在へと変貌を遂げた。その主な要因は、世界の基軸通貨としての米ドルの地位に異議を唱えることにある。この地位は、ワシントンに世界経済に対する並外れた権力と影響力をもたらしている。

BRICS は世界貿易の脱ドル化の最前線に立ち、その取り組みを主導しているのはブラジルである。昨年、同組織はリオデジャネイロで首脳会議を成功裏に開催した。

BRICS 開発銀行（現在は新開発銀行、NDB と呼ばれる）の総裁は、ルラ大統領の側近で大統領でもあったジルマ・ルセフ氏だ。貧困国における大規模開発プロジェクトへの資金提供に重点を置く NDB は、米国が支配する世界銀行や国際通貨基金にとって、有力な対抗勢力となる可能性を秘めている。

「毎晩、なぜすべての国がドルを基準に貿易を行わなければならないのかと自問自答している」と、ルラ氏は上海で開催された新開発銀行（NDB）での演説で述べた。「なぜ自国通貨を基準に貿易ができないのか？ 金本位制が崩壊した後、誰がドルを通貨と定めたのか？」と付け加えた。

「大統領は BRICS 諸国のドル切り下げの動きを見るたびに腹を立てている」と、トランプ大統領顧問だったスティーブ・バノン氏は明かした。トランプ大統領は、BRICS 諸国が「ドルを破壊する」可能性がある」と述べ、もしそれが実現すれば「まるで世界大戦に敗れたようなもので、もはや同じ国ではなくなってしまうだろう」と語った。

トランプ氏はブラジルを含む BRICS 諸国に追加関税を課し、「BRICS 加盟国は 10%の関税を支払わなければならない。BRICS は我々を苦しめるために作られたからだ。BRICS はドルの価値を下げ、ドルを基準通貨から引きずり下ろすために作られたのだ」と述べた。「ドルは王様であり、我々はそれを維持していく」と締めくくった。

トランプは西半球の覇権にこだわっている

トランプ氏がブラジルの次期選挙にこれほど深く関わっている理由を尋ねられたマイア氏は、次のように答えた。

「覇権。ブラジルは南米で唯一、主権を持つ中道左派政権と言えるかもしれないが、同時に南北アメリカ大陸で米国に次ぐ第 2 位の経済規模を誇り、ラテンアメリカの人口の約半分が居住している。トランプの新たなモンロー主義に基づき、米国は中国の影響から完全に解放された、従属的なブラジルを望んでいる」

案の定、9月4日に国務省は「モンロー主義は2世紀以上にわたり米国の外交政策を形作ってきた。西半球における米国の優位性は二度と問われることはないだろう」という声明を発表した。

1823年に初めて宣言されたモンロー主義（およびその後の派生原則）は、南北アメリカ大陸全体はアメリカ合衆国のみに属し、他の外国勢力はこの地域に歓迎されず、アメリカ合衆国は望むならばいつでも、この半球のどの国にも軍事介入できるということを示唆している。

学者、政治家、評論家は何世代にもわたってこの原則を軽視し、この政策が今もなお有効であると主張する学者を、誤った考えを持つ者、あるいは陰謀論者として攻撃してきた。しかし、トランプ政権は、これまでも内緒話を公然と口にしてきたように、モンロー主義を公然と受け入れ、それを米国政府の公式政策であると宣言した。

マイア氏はまた、ワシントンがブラジルに対して抱いている究極の目標についても説明した。

「米国を一つの国家として捉え、米務省が米国企業の利益を代弁してきた歴史を考慮すると、シリコンバレーのテクノロジー・ファシストたちが混乱を望んでいることは明らかだ。これらの強力な多国籍企業は、仮想通貨、ソーシャルメディアを使った洗脳工作、AI、オンライン賭博に関して、完全に規制のない環境を求めている」

「エルサルバドルとアルゼンチンでは今まさにこれが実現している。そしてブラジルでもそれが求められているのだ」と彼は結論づけた。

大陸を横断する干渉

トランプ政権は確かにモンロー主義の適用を試みており、西半球の各国の政治問題に公然と干渉してきた。トランプ大統領は5月のコロンビア大統領選挙で、極右候補（米国市民）のアベラルド・デ・ラ・エスプリエラ氏を「全面的に支持」と公言し、デ・ラ・エスプリエラ氏は僅差で勝利した。

退任するグスタボ・ペトロ大統領は、米国とイスラエルの両国が選挙に干渉したと非難した。ペトロ氏は以前からワシントンの標的となっており、トランプ大統領は12月、ペトロ氏が政権転覆作戦の「次の標的」であり、軍事作戦は「良い考えだ」と述べていた。

これに対し、ペトロ氏は「小児性愛者の一団がコロンビアの民主主義を破壊しようとしている」と警告した。「エプスタインのリストが公表されないようにするため、彼らは軍艦を派遣して漁師を殺害し、我々の兄弟国（ベネズエラ）に侵攻している。エプスタインのリストとその仲間たちは、アメリカ国民が自国政府のことを考えないように、ここで暴力行為を始めようとしているのだ」と説明した。

結局、ワシントンは一発の銃弾も発射することなく、自らの目的を達成した。

新大統領のデ・ラ・エスプリエラ氏は、自国が少なくとも 265 人の死者を出した壊滅的な地震に見舞われている最中にもかかわらず、イスラエルによるシリアのゴラン高原併合を即座に承認し、エルサレムに大使館を開設すると発表した。

トランプ氏はキューバに対し、テロ支援国家リストへの掲載、キューバへの送金停止、燃料封鎖、外国企業によるキューバとの取引停止など、新たな経済戦争キャンペーンで圧力を強めている。その結果、キューバ経済は急激に悪化した。「キューバは間もなく崩壊するだろう」とトランプ氏は 3 月に予測した。

MintPress News の調査によると、米国政府はキューバに関する多数のいわゆる独立系メディアに密かに資金援助を行っており、それらのメディアはすべて、カリブ海の同国に対する潜在的な米軍作戦の準備を進めていることが判明した。

キューバに対する楽観的な見方は、間違いなくトランプ氏によるベネズエラでのクーデターの成功に影響を受けている。1 月、米軍の精鋭部隊がカラカスを襲撃し、ニコラス・マドゥロ大統領とシリア・フローレス夫人を拉致してニューヨークへ連行した。

トランプ氏は、この攻撃を成功裏に終えた、儲かる「48 分間の戦争」と表現した。それ以来、米国はベネズエラの資源を不法に搾取し利益を得ている。しかし、トランプ氏は反省の色を見せず、「我々はベネズエラから大量の石油を奪っている」と述べ、「勝者には戦利品が与えられる」と付け加えた。

ラテンアメリカでは極右勢力が勢いを増しており、ペルーやエルサルバドルでの勝利に加え、最近の（アルゼンチンの）議会選挙ではミレイ氏が健闘した。後者の躍進は、トランプ大統領が 200 億ドルの米国経済援助は国民が正しい選択をした場合にのみ支給すると明言したことが一因となっている。トランプ大統領は、ミレイ氏が敗北すれば「時間を無駄にする」と警告した。

したがって、ラテンアメリカにおける米国の状況は良好に見える。しかし、ブラジルがその前に立ちはだかる。この地域で最大かつ最も人口の多いブラジルは、トランプ主義に対する防波堤として機能している。極右勢力が地域全体で勢力を拡大している一方で、世論調査によると、ブラジル国民は依然として80歳のルラ元大統領に信頼を寄せ、フラビオ・ボルソナロ氏を概ね拒否している。

つまり、ブラジルはアメリカによる南米制覇を阻んでいるのだ。投票開始まであと2か月近くあるため、結果はまだ確定していない。しかし、確かなことは、アメリカはトランプ大統領が「アメリカの裏庭」と呼ぶこの地域に干渉し、支配しようとし続けるだろうということだ。

【翻訳チェック 鈴木頌】